別添資料

平成24年度

県全体の学力・学習状況の傾向

1　教科に関する調査の全体傾向

（1）　平成２４年度調査の結果（抽出率１４．６％）

	平均正答率の信頼区間（%）<小学校>	平均正答率の信頼区間（%）<中学校>
国語A（知識）	県　79.8～81.4 国　(81.4～81.7)	74.7～75.8 (75.0～75.2)
国語B（活用）	54.0～56.1 (55.4～55.8)	63.0～64.2 (63.2～63.4)
算数・数学A（知識）	71.1～73.0 (73.1～73.5)	64.2～65.8 (62.0～62.3)
算数・数学B（活用）	58.3～60.4 (58.7～59.1)	49.9～51.9 (49.2～49.5)
理　科	59.3～61.0 (60.8～61.1)	53.0～54.4 (50.9～51.1)

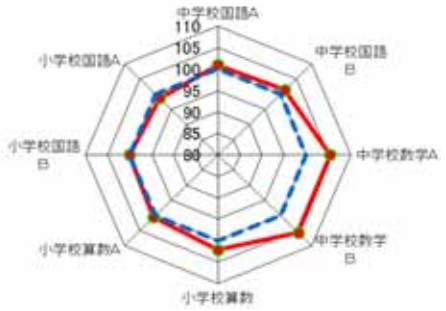
上段：愛知県
下段( )内：全国

※平均正答率の信頼区間とは，95%の確率で，悉皆調査の場合の平均正答率が含まれる範囲のこと。

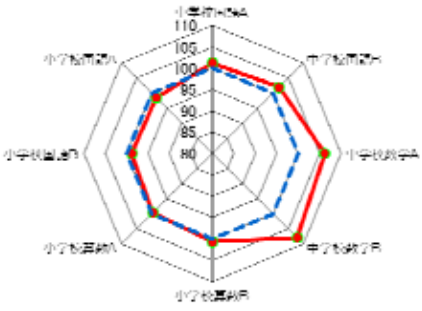
全国の平均正答率との比較においては，小学校は国語のA問題，算数のA問題に課題がある。中学校はある程度高く，特に数学，理科が高い。

（2）　調査区分ごとに見た傾向（全国を基準とした比較）

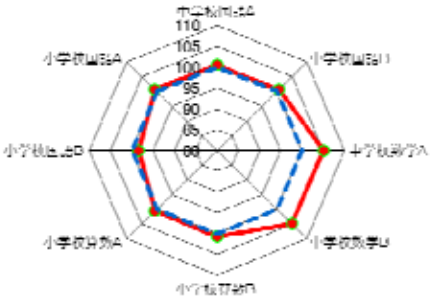
平成１９年度



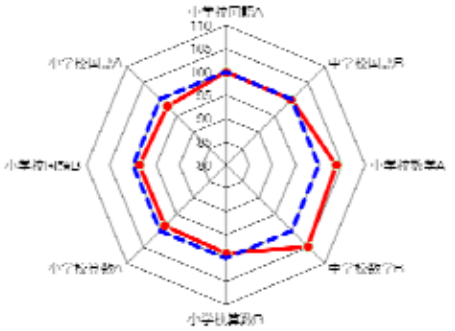
平成２０年度



平成２１年度

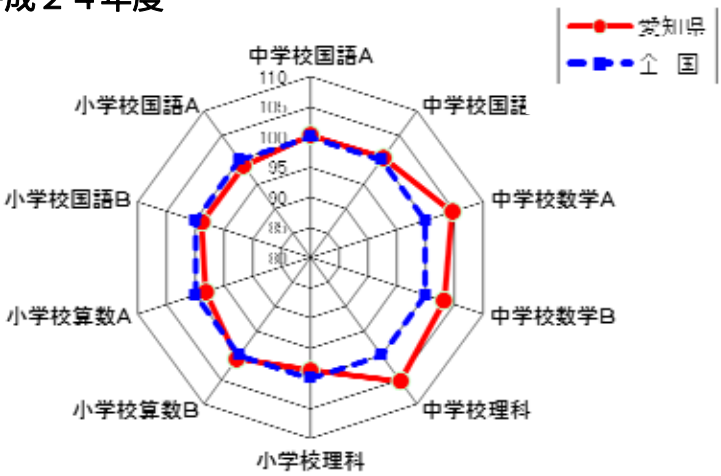


平成２２年度



※平成 22 年度以降は平均正答率の信頼区間の中間値を使用して作成

平成２４年度



※これ以降，平成２２年度，２４年の調査結果については，平均正答率の信頼区間の中間値を使用して分析を進めることとする。

（３）　主な指導の成果と本県の児童生徒の特長（過去の調査との比較等より）

校種	教科	主な指導の成果と特長
小学校	国語	・平成２０年度調査以来課題であった**記述式**の正答率が５年ぶりに全国平均を上回った。新学習指導要領の主旨を理解して「書くこと」を意識した指導の成果であろう。 ・調査開始以来課題であった**漢字の読み書き**については，本年度も全国の平均正答率を下回っているが，全国との差は４年前の半分程度に縮んだ。課題克服に向け，小学校において漢字や語句などを定着させる指導を地道に行ってきた成果と考えられる。
	算数	・平成２２年度調査で全て全国平均を下回った**Ｂ問題の記述式**の正答率は，５問中４問が全国平均を上回った。算数的活動を取り入れた成果であると推察される。
	理科	・主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する活用に関する問題に分けて分析すると，**「活用」に関する問題**の正答率が高い傾向にある。実生活における事象との関連を図った理科の授業や観察や実験の結果を整理し考察する理科の指導の成果と考えられる。
中学校	国語	・調査開始以来，正答率の低い問題でも**無回答率は低い傾向が見られ**，本県の中学生は難しい問題に対しても粘り強く回答しようとする姿勢がうかがえる。 ・全国との比較において，小学校６年時に課題であった**Ａ問題の「話すこと・聞くこと」**，**Ｂ問題の「書くこと」「読むこと」**で見られた全国との差はほぼ改善された。
	数学	・全国との比較において，調査開始以来、**「数と式」「数量関係」**の正答率が高い。特に，小学校６年時に課題であった**「数量関係」**が大きく伸びた。中でも，**関数**に関する設問の正答率が高く，指導の成果がうかがわれる。
	理科	・全国との比較において，**全ての領域，観点**においても，高い正答率となっている。その中で，特に特に高いのは**知識・理解**に関する問題であった。これは，理科室で観察や実験をする授業の頻度が多く（月１回以上：全国95%・愛知100%），観察・実験による実感を伴った知識の定着がなされた結果と考えられる。

※この欄の基となる詳しいデータはp72以降を参照

３　本県の課題

（１）　教科に関する調査より

校種	教科	全国の平均正答率との比較から見た課題	平均正答率が低い（60%以下）設問
小学校	国語	**漢字の読み書き**の設問６問中５問が全国を下回った。その中の３問は全国を２％以上下回る。	正答率が60%以下の設問は，28問中８問あった。そのうち**「書くこと」**に関する設問５問が低い結果となった。
	算数	・調査開始以降５回連続で**算数Ａの図形**に関する設問が全国を下回った。 ・７問が２%以上下回り，そのうち４問は**知識・理解**に関する設問であった。	正答率が60%以下の設問は，32問中12問あった。そのうち６問が**数学的な考え方**，５問が**知識・理解**に関する設問であった。
	理科	全国を２％以上下回った問題が５問あり，そのうち３問が**エネルギー**に関する設問であった。	正答率が60%以下の設問は，24問中11問あった。そのうち９問は，**主として「活用」に関する問題**であった。
中学校	国語	Ａ問題の**読むこと**，Ｂ問題の**話すこと・聞くこと**に関する設問がやや全国を下回った。	正答率が60%以下の設問は，41問中８問あった。**「読むこと」「言語事項」**に関する設問がそれぞれ４問低い結果であった。
	数学	全国を下回ったのは，51問中６問のみであった。領域別では**図形**に関する設問，観点別では**知識・理解**に関する設問であった。	正答率が60%以下の設問は，51問中23問あった。**Ｂ問題の記述式**の設問７問中６問が，正答率50%を割る結果となった。
	理科	全国を下回ったのは，26問中１問のみであった。**主として「知識」に関する問題**は，10問中８問が全国平均を２％以上上回った。	正答率が60%以下の設問は，26問中16問あった。**物理的領域の「知識」**に関する設問，**地理的領域の「活用」**に関する設問は，正答率が40%を割った。

（２）　児童生徒質問紙より（比較的平均正答率との相関関係※がみられる設問）

・ 授業で，自分の考えを発表する機会が与えられていると感じている児童生徒は平均正答率が高い傾向にあるが，成績上位の県に比べ，そう感じている児童生徒が少ない。
・ 感想文や説明文を書くこと，自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることを難しいと感じている児童生徒の割合が，全国に比べ高い。
・ 感想文や説明文を書くこと，自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることを難しいと感じている児童生徒の割合が，全国に比べ高い。
・ 宿題に関する肯定的な回答の割合は年々増加傾向にあり，全国値より高いが，自分で計画を立てて勉強する児童生徒の割合は低くなっている。また，小学生の学校の授業時間以外の勉強時間は，全国値を下回っている。
・ １日のテレビゲーム（コンピュータゲーム，携帯式のゲーム含む）をする時間が多い児童生徒ほど成績が悪い傾向にあり，本県の小･中学生がゲームをする時間は全国値より高い結果となった。

（３）　学校質問紙より（比較的平均正答率との相関関係がみられる設問）

・ 平成２２年度に続き，漢字の読み書きや語句など，基礎基本を定着させる授業や算数や数学で計算問題などの反復練習をよく行っていると回答した学校の割合は高いが，国語や算数･数学，理科の授業において「発展的な学習の指導を行った」と回答した学校の割合は，全国値より低い。
・ 家庭学習に関わる質問についての回答の状況は，全国とほぼ同じ傾向である。しかし，家庭学習の内容で，「調べたり文章を書いたりする宿題を出している」割合が低く，全国値を約13ポイント下回っている。
・ 理科の指導では，自ら考えた仮説をもとに観察，実験の計画を立てる指導を行ったと答えた学校が，小･中とも全国を６．５ポイント下回っている。さらに，中学校では，「観察，実験のレポートの作成方法に関する指導」を行っているという回答の割合が全国より18.5ポイント低くなっている。
・ 全国と比較して，朝の読書など一斉読書の時間が少ない。
・ 校内研修の頻度は全国に比べ多い割に，中学校においては，「学校外での研修に参加できるようにしているか」，「校内外の研修や研究会に参加しその成果を教育活動に積極的に反映させているか」対する肯定的な回答の割合が全国値より低い。

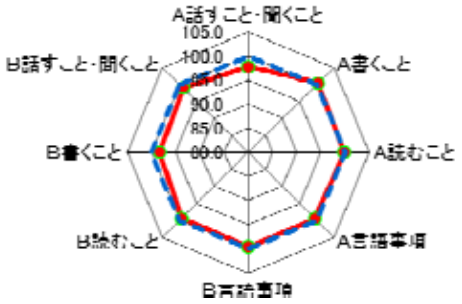
※「平均正答率との相関関係」
　平均正答率と質問紙調査の２つの変数間の関係の程度を１つの数値で表す相関係数により判断した。相関係数は－１～＋１までの範囲の値をとり，＋１に近いほど正の相関が強いことを表す。
　学校質問紙調査の結果と正答率との関係については，児童生徒の質問紙調査の結果と正答率の関係に比べ相関関係が表れにくい傾向があり，データから読み取れる内容と実際の状況を照らし合わせて考察した。

３　国語の傾向と改善の方策

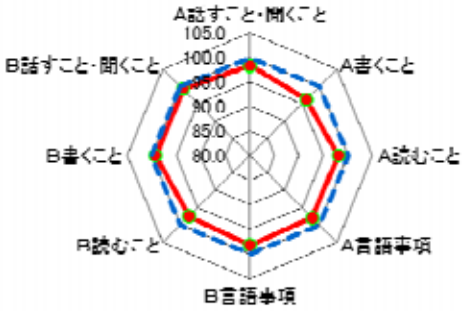
（１）　小学校国語の傾向

ア　領域・評価観点・解答形式別で見た傾向（全国を基準とした比較）

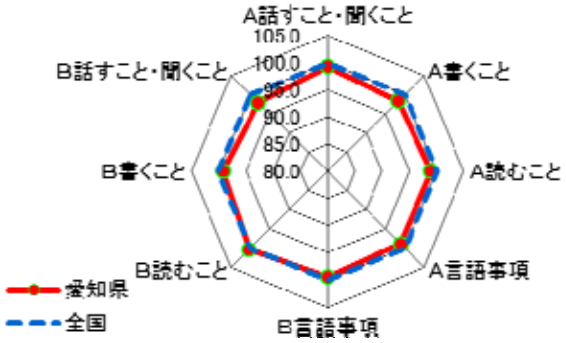
平成１９年度～２１年度（３年間の平均）



平成２２年度



平成２４年度



- Ａ問題は，全国平均よりやや低く上位層がやや少ない。Ｂ問題は，全国平均と同程度である。年々全国との差が開いていく傾向にあったが，Ａ・Ｂともに差を縮めている。
- Ａ問題の漢字の読み書きに関する設問６問中５問，Ｂ問題の話すこと・聞くことに関する設問３問中２問が全国平均を下回った。
- 無回答率が高い設問２問は，いずれも記述で答える設問である。

全国の平均正答率との差(%)	２０年度		２１年度		２２年度		２４年度	
	Ａ知識	Ｂ活用	Ａ知識	Ｂ活用	Ａ知識	Ｂ活用	Ａ知識	Ｂ活用
教科全体の正答率	-1.0	-0.6	0.5	-0.8				
話すこと，聞くこと	0.0	-0.2	-1.4	-0.5	-1.4	-0.6	-0.6	-1.3
書くこと	0.6	-0.3	-0.3	-1.2	-2.6	-0.7	-1.0	-0.4
読むこと	0.6	-0.7	-1.0	-1.0	-1.5	-1.8	-0.9	0.2
言語事項	-1.2		1.0	-0.1	-1.8	-1.3	-1.0	-0.3
国語への関心・意欲・態度	0.9	-0.5	-1.4	-0.4	-1.6	-1.3	-1.4	0.2
話す・聞く能力	0.0	-0.2	-1.4	-0.5	-1.4	-0.6	-0.6	-1.3
書く能力	0.8	-0.1	-0.3	-1.2	-2.6	-0.7	-1.0	-0.4
読む能力	0.6	-1.0	-1.0	-1.0	-1.5	-1.8	-0.9	0.2
言語についての知識・理解・技能	-1.7		1.0	-0.1	-1.8	-1.3	-1.0	-0.3
選択式	0.0	0.2	-0.3	-2.3	-1.8	-0.8	-0.6	-1.0
短答式	-1.4	-1.0	0.9	-0.4	-1.9	-0.7	-1.0	0.5
記述式		-0.6	-1.4	-0.4		-1.6		0.2

イ　国語Ｂ記述式の問題における無解答率から見た傾向

２１年度				２２年度				２４年度			
設問番号	無解答率（%）			設問番号	無解答率（%）			設問番号	無解答率（%）		
	愛知	全国	差		愛知	全国	差		愛知	全国	差
１二	12.4	12.6	-0.2	2-(1)	6.3	5.3	1.0	１二	8.0	7.0	1.0
２二	12.2	11.7	0.5	２二	8.7	7.8	0.9	２二	15.2	14.5	0.7
3二(1)	12.0	11.7	0.3	３二	11.8	11.2	0.6	３四	16.8	17.0	-0.2
3二(2)	15.3	16.4	-1.1	４	2.8	3.0	-0.2				
４二ア	12.6	13.4	-0.8								
４二イ	14.9	15.8	-0.9								

ウ　主な課題と指導改善の方向性

（ア）　愛知県と全国の平均正答率の差から見た課題

※ ☞ マークは授業アイデア例のページを示している

	調査結果における主な課題	改善の方向性
話すこと・聞くこと	○　目的や意図に応じ，資料を的確に読み取ったり，ねらいを明確にしたりしながら適切に質問をすること。 （例） ・　話し合いの目的を再確認し，計画的に話合いを進めようとする司会の役割を適切に説明したものを選択する。B[2]三 ・　話し手の話の内容を聞きながら書いた質問について，その狙いを適切に説明したものを選択する。A[2]	・資料をもとにして話し合う場面において，資料に示された項目ごとの傾向や変化をおさえ，分析・考察し，その上で生じた疑問について，具体的な事実を根拠としてあげながら質問することができるように指導する。☞㊞p160 ・スピーチでは，話の中心や話し手の意図を捉えながら聞き，ねらいを明確にして質問することができるよう指導する。☞㊞p126
書くこと	○　目的や意図に応じ，必要となる事柄を整理して簡潔に書くこと。 （例） ・　目的や意図に応じ，依頼する具体的な内容として適切なものを選択する。B[1]一	・依頼の手紙を書く際には，手紙を送ることにした経緯や依頼する具体的な内容を明確にし，手紙の構成を押さえた上で，目的や意図に応じ，文章全体を見通して事柄を整理することができるように指導する。☞㊞p146
読むこと	○　編集者の意図を捉えることや，場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら音読すること。 （例） ・　編集者の意図を説明したものとして適切なものを選択する。B[3]二 ・　四つの会話文の音読の仕方として適切なものをそれぞれ選択する。A[4]	・雑誌を読む場合，雑誌の記事の内容や表現の特徴を，編集者の立場に立って推論しながら読むことができるように指導する。☞㊞p126 ・登場人物の心情の変化や場面の移り変わりを捉えて音読することができるように指導する。

㊞は「平成２４年度　全国学力・学習状況調査【小学校】報告書

○漢字の読み書きにおける傾向

２０年度		２１年度		２２年度		２４年度	
問　題	本県の正答率	問　題	本県の正答率	問　題	本県の正答率	問　題	本県の正答率
・保護する	97.5%	・混雑する	92.8%	・慣れる	95.1%	・建築する	86.3%
・承知する	89.1%	・移る	90.6%	・目次	94.2%	・独立	90.1%
・勢いよく	72.1%	・採集する	75.5%	・清潔	95.2%	・許す	94.3%
・なげる	79.8%	・びょういん	72.5%	・ひさしぶり	77.2%	・いしゃ	79.8%
・よぼうする	60.0%	・さんせい	79.9%	・ぎじゅつ	68.5%	・たいよう	83.3%
・おうふくする	57.3%	・はこぶ	76.3%	・へんか	88.3%	・ぬの	89.8%
本県の全体正答率	76.0%	本県の全体正答率	81.3%	本県の全体正答率	86.4%	本県の全体正答率	87.3%
全国の全体正答率	78.9%	全国の全体正答率	83.6%	全国の全体正答率	89.0%	全国の全体正答率	88.8%
差	-2.9	差	-2.3	差	-2.6	差	-1.5

※　漢字の読み書きについては，本年度も全国の平均正答率を下回っているが，全国との差は４年前の半分程度に縮んだ。

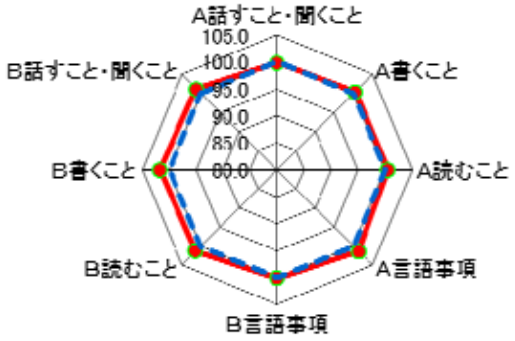
（イ）　全国的に平均正答率の低い設問から見た課題

調査結果における主な課題	改善の方向性
書くこと ○目的や意図に応じ，必要となる事柄を整理して簡潔に書くことこと。A[7] ◆過去の関連問題…H22A[4] 読むこと ○目的や意図に応じて，必要となる事実を読み取ったり，複数の情報を関係づけたりしながら自分の考えをもつこと。B[3]四 ◆過去の関連問題…H20B[3]二，H22B[4]	・事実や感想，意見などをそれぞれ一文にまとめた上で，文の意味を変えないように一文に統合するように指導したり，重文や複文などの一文を複数の文に書き分けるように指導したりする。 ・文の中における主語と述語の関係や，修飾と被修飾との関係を整え，接続語や指示語などを適切に使うことができるように指導する。 ・雑誌や新聞を読む場面で，書き手がどのような事例を考えの理由や根拠としているかを捉える指導，書き手のにつ感想や意見，判断や主張について推論することができるように指導する。

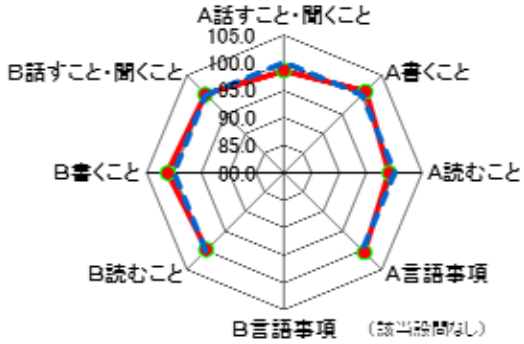
（２）　中学校国語の傾向

ア　領域・評価観点・解答形式別で見た傾向（全国を基準とした比較）

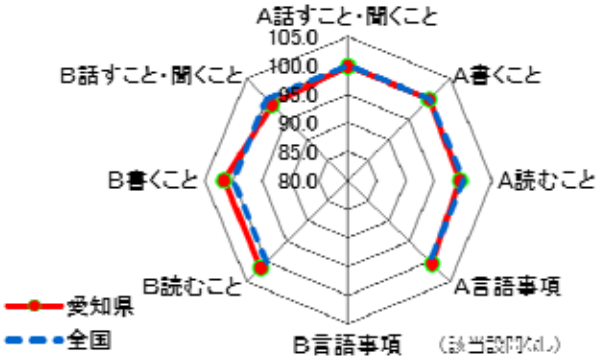
平成 19 年度～21 年度



平成２２年度



平成２４年度



- １９年度～２２年度と同じく，ほぼ全国と同様の傾向である。
- 無解答率が全国値より高いものは，全41問中７問である。
- ３年前の６年生の時，Ａ問題の「話すこと・聞くこと」，Ｂ問題の「書くこと」「読むこと」は全国との差がほぼ改善された。「話すこと・聞くこと」の活用ににについて指導する必要がある。

全国の平均正答率との差(%)	２１年度		２２年度		２４年度		小６時（H21）	
	Ａ　知	Ｂ　活	Ａ　知	Ｂ　活	Ａ　知	Ｂ　活	Ａ知識	Ｂ活用
教科全体の正答率	0.4	0.5	0.0	-0.1				
話すこと，聞くこと	-0.5		-1.1	0.1	-0.1	-0.8	-1.4	-0.5
書くこと	0.5	0.0	0.7	0.7	0.0	0.9	-0.3	-1.2
読むこと	-0.3	0.5	-0.7	-0.1	-0.4	0.9	-1.0	-1.0
言語事項	1.2		0.4		0.4		1.0	-0.1
国語への関心・意欲・態度		0.0		0.7		0.9	-1.4	-0.4
話す・聞く能力	-0.5		-1.1	0.1	-0.1	-0.8	-1.4	-0.5
書く能力	0.5	0.0	0.7	0.7	0.0	0.9	-0.3	-1.2
読む能力	-0.3	0.5	-0.7	-0.1	-0.4	0.9	-1.0	-1.0
言語についての知識・理解・技能	1.2		0.4		0.4		1.0	-0.1
選択式	-0.2	0.5	-0.3	-0.6	0.2	-0.2	-0.3	-2.3
短答式	1.1	1.4	0.4	-0.1	0.1	1.0	0.9	-0.4
記述式		0.0		0.7		0.9	-1.4	-0.4

イ　国語Ｂ記述式の問題における無解答率から見た傾向

２１年度				２２年度				２４年度			
設問番号	無解答率（%）			設問番号	無解答率（%）			設問番号	無解答率（%）		
	愛知	全国	差		愛知	全国	差		愛知	全国	差
1ーｱｲ	0.9	0.9	0.0	１三	3.7	3.8	-0.1	１三	14.6	13.9	0.7
1三ア	7.0	7.1	-0.1	２三	10.3	10.3	0.0	２三	7.8	8.1	-0.3
1三イ	6.6	6.8	-0.2	３三	21.5	22.0	-0.5	３三	13.1	13.6	-0.5
２二	12.5	13.1	-0.6								
３三	3.9	4.3	-0.4								

ウ　主な課題と指導改善の方向性

（ア）　愛知県と全国の平均正答率の差から見た課題

※ ☞ マークは授業アイデア例のページを示している

	調査結果における主な課題	改善の方向性
話すこと 聞くこと	○　**相手の発言や話の展開に注意して聞いたり，相手の話を踏まえて自分の考えを話すこと。** （例） ・　対談での発言の役割を説明したものとして適切なものを選択する。B[1]一 ・　対談の展開を整理したものとして適切なものを選択する。B[1]二	**・目的を明確にして，相手の考えを踏まえて話したり，自分の発言が話の展開に及ぼす影響を考えて話したりするように指導する。** **・対話や討論において，第三者として話し合いの内容について評価し，その評価を自分の発言に生かせるように指導する。**
書くこと	○　**対談者の発言の内容を取り上げて，自分の考えを具体的に書くこと。** （例） ・　これからどのような言葉の使い方をしたいのかを具体的な言葉の例を挙げて書く。 B[1]三	**・対話や討論を基に自分の考えを書く場合，自分の体験や経験に基づいた具体例を挙げて，自分の考えを書くような学習活動を取り入れる。また，書いた文章について読み合い，意見を述べ合う学習活動も設定していきたい。☞㊙p188**
読むこと	○　**目的に応じて必要な情報を読み取ること。** （例） ・　取扱い絵表示の内容に加えて気を付けなければならないこととして適切なものを選択する。 A[6]二	**・目的に応じた必要な事柄を明確にし，それに応じて情報を取捨選択しながら読み進めるように指導する。☞㊙p150** **・同一の教材を用いた学習で，個々に異なる目的をもって文章を読み，必要な情報を整理するような学習活動を取り入れる。**
言語事項	○　**文脈に即して漢字を正しく読むこと。** （例） ・　考えに相違がある。A[7]二1 ・　会議で決を採る。A[7]二3 ○　**語句の意味を理解したり，文脈の中で適切に使ったりすること。** ・　漢字の音読みと訓読みの説明として適切なものを選択する。A[7]八1 ・　適切な語句を選択する。 「弟子を手塩にかけて育てる」[7]三ウ 「たなびく雲の間から，…」[7]三エ	**・実際に漢字を読んだり書いたりする機会を多くして，習熟を図る。** **・文脈の中で意味を理解しながら読むことができるように指導する。☞㊙p159** **・漢和辞典の「凡例」や「使い方」のページを確認し，目的に応じた活用をするように指導する。** **・読書量を増やして，慣用句や普段あまり使わない言い回しにふれる体験を増やしたり，授業で使ってみる体験を酢やしたりする必要がある。** **☞㊙p162**

㊙は「平成２４年度　全国学力・学習状況調査【中学校】報告書

（イ）　全国的に平均正答率の低い設問から見た課題

調査結果における主な課題	改善の方向性
話すこと・聞くこと，書くこと ○　**相手の発言を注意して聞き，自分の考えを書くこと。**B[1]三 ◆過去の関連問題…H21 小B[2] **読むこと** ○　**比喩という言葉と結び付けて，表現の仕方を理解すること，目的に応じて必要な情報を読み取ること。**A[3]二，A[6]二 ◆過去の関連問題…H20 A[1] ○　**物語の展開や表現の特徴を捉えること。** **B[3]一，二** ◆過去の関連問題…H19 B[2]一，H22 A[5]二 **言語事項** ○　**話し言葉と書き言葉との違いを理解し，適切に使うこと。**A[4]二 ○　**文脈に即して漢字を正しく書くこと及び読むこと，語句の意味を理解し文脈の中で適切に使うことの一部。** A[7]一1，二1，三ウ，エ，四イ	**・　話や文章のどの部分に特に興味や関心をもったのかを明確にした上で，なぜそこに着目したのか，それについて自分はどう考えるのかなどを書くように指導する。** **・　具体的な言語活動を設定し，明確な目的をもたせて文章を読むように指導する。** **・　文学的な文章を題材にして，語句や表現，情景描写などに着目して，場面の展開や登場人物の心情などを解釈させるよう指導する。** **・　小学校での学習を踏まえ，文章中の具体的な表現と結び付けながら，比喩や反復などお表現技法について理解し，その名称とともに整理するように指導する。** **・　辞書等を使ってなじみの薄い語句や使用頻度の低いと思われる漢字などを積極的に調べる機会を意図的に設ける。**